

群馬県立伊勢崎興陽高等学校			学校評価一覧表（令和6年度版）			(別紙様式)		
羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 ※上記の項目に替えて又は加えて、評価対象Ⅱ～Ⅵにおける評価項目や学校独自の項目を設定する。評価項目の設定に当たっては、学校運営や教育活動全般等から、学校の特色や「ル・ポ」イットを吟味し、特色ある学校づくりの状況が明確になるように工夫する。 ※各学校に応じた評価項目を加える。	※各学校に応じた具体的数値項目を設定する。 ①自分の学校やクラスが好きだと感じる生徒が85%以上である。	※年度当初、具体的数値項目に対する方策を明確にする。 ①職員全体で生徒個々に目を配り、特性に応じた指導を行う。	A	A	A	○自分のクラスに満足している生徒が92%であった。また、学校が好きだと感じている生徒は89%であった。今後も学校やクラスに愛着の持てるような学校運営を行っていきたい。	○即、社会から求められている力、社会に通用する力を豊かな実験実習を通じて着実に育成していると感じます。 ○特色あるカリキュラムで教育活動が大変充実していると思います。 ○系列の特色を活かして、子供達が自ら考え、行動している教育活動が実践されている。 ○クラスに満足、学校が好きという生徒が多いとの実績は素晴らしい。 ○地域との交流活動やボランティア活動の充実が課題とのこと、地元町内会等の諸行事への参加、定期的な道路清掃などボランティア活動を充実してもらいたい。
		②自分が所属する系列の学習活動に満足している生徒が90%以上である。	②系列学習が自らの進路に直結することから、学びが社会貢献に繋がることを意識付ける。	A	A	A	○自分が所属する系列の学習活動に満足している生徒が92%であった。今後もミスマッチの少ない系列選択の指導を行っていきたい。	
		③地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が70%以上である。	③系列学習の実践の場であることを理解させ、これらの経験から自己有用感を高める。	C	C	C	○地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が24%であった。また、機会があれば参加したいと回答した生徒が62%であり、参加を希望している生徒がある程度存在しているので、今後は情報提供の場をいかに設けるかが課題である。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業は分かりやすい」と感じる生徒が90%以上である。	①授業評価等で教員が振り返りを行い、適切な指導を行う。	A	A	A	○授業がわかりやすいと感じている生徒が91%であった。今後も生徒実態に合わせた指導を行ってきたい。	○発表から、生徒の思いを実現するために先生方の素晴らしいサポートがあったことがうかがえます。 ○高校段階では様々な生徒がいると思いますが、個に応じた指導が行なわれていると思います。 ○アンケート結果から、授業がわかりやすいと回答する生徒が多い。結果定期調査の高得点に繋がっている。 ○発表にあったように、生徒の主体的な学びによって得られた確かな学力は生涯に渡って通じていくと感じました。 ○それぞれの系列において確かな学力が身に付いていると感じます。 ○学力が着実に身に付いていると考えられる。
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①基礎力診断テストにおいてG T Zが上昇している生徒が60%以上である。	①進学希望者が増加していることから、基礎力テストが進学に資することを理解させる。	C	B	C	
	②定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が75%以上である。		②平常時より課題等による授業以外での学習習慣の確立を図る。	A	A	A	○定期試験前や試験期間中に家庭学習を2時間以上行っている生徒が89%であった。2時間以上学習に取り組む指導を継続して行いたい。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が75%以上である。	①挨拶の意義を指導し、教職員からも積極的に挨拶する。また、始業、終業時の分離礼を徹底する	A	A	A	○誰にでもしっかりと挨拶できる生徒が81%であった。今までの継続指導の成果が現れている。	○組織的・継続的な指導の成果が発表会で十分に伝わってきました。 ○学習成果発表会からも先輩から後輩へ着実に受け継がれていると感じました。 ○一般的に挨拶など出来ない生徒が多くなっている中、興陽高校の生徒は、いつも明るく挨拶を実践している。
		②生徒に関する情報交換を学期に3回以上実施する。	②職員会議、朝会等で、全職員の情報共有を図る。	A	A	A	○生徒に関する情報交換を学期ごとに3回以上行った。各学年をはじめ職員間において今後も随時行い、適切な指導に役立てる。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①全教職員が、いじめの未然防止に努めるとともに、発生時の解消率が100%である。	①全教職員が、いじめの未然防止に努めるとともに、発生時の解消率が100%である。	A	B	A	○いじめ防止対策委員会を中心にいじめの未然防止及び早期発見、早期対応し、早期に解消することができた。	○組織的に先生方が一丸となって指導に当たられていると思います。 ○組織的に、早期にいじめを発見する努力がなされていると思います。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①生徒の欠席率が1.3%以下である。	①不適応傾向の生徒に対する早期対応及び長期欠席者（不登校生徒）への対応（家庭連絡等）を的確に行う。	C	C	C	
	②中途退学者及び転学生徒が3名以下である。		②生徒の動向を正確に把握し、各分掌と連携して組織的な対応を行う。	C	C	C	○中途退学者及び転学者が1月27日現在で13名であった。生徒に寄り添った指導を行うとともに魅力ある学校づくりに努めたい。	
	③部編成時の部活動や研究部の加入率が70%以上であり年間を通じて活動している生徒の割合が60%以上である。		③部活動や研究部活動の充実にも努めるとともに困難に負けない強い気持ちらが育つよう生徒に寄り添う。	A	A	A	○部活動や研究部への入部率は7月時点で70%、12月時点で68%であった。3年間持続した活動を今後も指導してきたい。	
	④「清掃が行き届いている」と感じている生徒が80%以上である。		④整美委員会の生徒が主体となり清掃用具の管理を行い、日常的な清掃の徹底に努める。	B	B	B	○「清掃が行き届いている」と感じている生徒が72%であった。まだまだ改善の余地があるので清掃指導を継続して行ってきたい。	
	Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①インターンシップに参加した生徒が100%である。	①インターンシップへの参加を組織的に指導する。	A	A	A	○3年間で全生徒が1度は必ずインターンシップを経験している。1年生は12月に系列別インターンシップを実施した。2・3年生は希望者インターンシップを夏休みに実施した。今年度の希望者は2年生11名、3年生4名であった。今後は2・3年生の希望者インターンシップ参加者数が増えるよう取り組みたい。
②生徒が取得した資格数が、一人あたり1.5以上である。			②取得可能な各種資格を紹介し、組織的に指導・支援する。	B	B	B	○今年度の資格取得数は、1月27日現在でのべ782資格である。一人当たり1.4であった。資格取得に向け、指導の充実をさらに考えたい。	
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		①将来の職業について考え、進路実現に主体的に取り組んでいる生徒が85%以上である。	①系列の専門性を生かしたインターンシップの充実と参加率の向上を図る。	B	B	B	○進路の方向性が概ね決まっている生徒が1年生は71%、2年生は79%である。また、アンケートでは進路に関して家庭で話題になると回答した生徒が96%であった。系列の専門性を生かし、さらに進路について生徒が主体的に考える機会を提供してきたい。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	②目標としていた進路を実現できた生徒が95%以上である。	②進路指導の充実を図るとともに、大学・短大入試担当者や企業採用担当者との連絡を積極的に行う。	A	A	A	○進路決定者は1月27日現在で187名／191名であり、率にすると98%である。3年保護者のアンケートでは、進路について満足している・ほぼ満足していると回答した保護者が95%という結果であった。今後もさらにきめ細やかな支援をしていきたい。	○興陽フェスタ等、地域の方々からも親しまれ、大きな発信であると思います。今後のインスタも期待できます。 ○Instagram導入など積極的に情報発信に努めていると思います。 ○各系列の特色を活かした地域との交流活動が多い学校で、HPやInstagram等で分かりやすく発信していることは良いことである。
		①学校のWebページを月2回以上更新している。	①Webページの運用体制を改善し、定期的な更新に努める。	A	A	A	○学校のWebページを月2回程度更新している。内容は学校通信や諸行事等のトピック、入試情報を中心に扱っている。今後はスマホからのアクセスを意識し、動画の活用も充実を図りたい。	
		②学校の教育活動を理解し、満足している保護者が95%以上である。	②三者面談の実施や学年通信の発行、メール配信等を行うことにより保護者との連携を向上させる。	A	B	B	○学校の教育活動を理解し、学校からの通知やホームページ等により学校の様子が分かり満足していると回答した保護者が91%であった。さらに理解され、満足していただけるような教育活動を行いたい。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	③地域開放行事の一層の充実及び上泉町、伊勢崎市等のイベント、保育園・幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校との連携授業へ積極的に参加、協力する。	③地域行事への参加や地域と連携した取組が10件以上であった。地域との絆を維持続けてきた実業高校としての伝統を守るように今後も活動する必要がある。	A	A	A	○地域行事への参加や地域と連携した取組が10件以上であった。地域との絆を維持続けてきた実業高校としての伝統を守るように今後も活動する必要がある。	○今後ともICTの活用について十分に検討なされていると思います。 ○業務改善に努めている様子が分かりました。
		①生徒がコンピュータやインターネットを利用して調べたことや考えを整理したりまとめたりするのにクロームブックを活用させている。	①生徒がコンピュータやインターネットを利用して調べたことや考えを整理したりまとめたりするのにクロームブックを活用させている。	A	A	A	○個別最適化した授業を行うために、クロームブックを活用している教員が100%であった。生徒の実態に即した活用方法を今後も模索してきたい。	
		①ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①ICTを活用して業務を改善しようと努力している職員が85%以上であった。職員個人のスキルアップを図るため研修会等を検討したい。	A	A	A	○ICTを活用して業務を改善しようと努力している職員が85%以上であった。職員個人のスキルアップを図るため研修会等を検討したい。	